

東日本大震災に関する農業農村工学会の取組み

本会は、東日本大震災に対し、発生直後から災害対応特別委員会により調査団の派遣、提言、情報の提供等を行ってきました。数カ月を経た今日では、現地においてはすでに復興に向けた活動が力強く動き出しており、状況は次の段階へと展開しています。会員諸氏が専門的な科学技術の知見を活かし被災地の復興に積極的に貢献されることを期待しております。また、研究委員会の下で活動してきた震災復興農村計画小委員会は、これまでの調査研究の成果を「東日本大震災復興農村計画への提言（第一次）」としてとりまとめ、関係方面に発信しました。また、8月9日には災害対応特別委員会が仙台市で農地塩害と取組方向のシンポジウムを開催しました。学会大会やCIGR 2011でも震災関係のシンポジウム等を企画しております。ぜひご参加下さい。

東日本大震災に関する活動をされた学会員は、災害対応特別委員会に情報提供をお願いします。寄せられた提言や情報を学会ホームページや学会誌等で公表し、会員間の情報共有と一層の社会貢献に努めます。

会 告

○平成 23 年度会員名簿の掲載事項について（再）	58
○平成 24 年度農業農村工学会賞候補の推薦について（再） 締切 10 月 31 日	58
○「農業農村工学会学術基金」への募金について	59
○農業農村工学会災害対応調査団専門別調査団員登録について	59
○学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集!!	59
○平成 24 年の表紙写真の募集 夏季締切 9 月 30 日	60
○「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！	61
○国際学会「国際水田・水環境工学会」への入会のお願いと国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」について	62
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2009 年 1 月から 2011 年 12 月までの編集事務局（投稿先）のお知らせ	62
○CIGR（国際農業工学会）国際シンポジウム 2011 の開催について 9 月 19～23 日開催	63
○平成 23 年度東北支部総会・第 54 回東北支部研究発表会の開催について（第 3 報） 発表締切 9 月 20 日	64
○第 32 回農地保全研究部会研究集会の開催について（第 3 報） 参加締切 10 月 15 日	65
学会記事	67

第 79 巻第 10 号予定

展望：愛知用水通水 50 周年に想う：溝田大助

小特集：愛知用水通水 50 周年

- ①愛知用水事業及び二期事業の建設における技術：田村俊秋ほか
- ②愛知用水の水管理システムと運用：脇阪賢二ほか
- ③愛知用水がもたらした地域の発展：藤山直史ほか
- ④愛知用水における農業用水の現状と展望：小酒井 徹
- ⑤愛知用水の礎（組織と資金調達）：梅村喜重ほか

技術レポート

北海道支部：石狩川頭首工導水路工事におけるプレキャスト函渠の施工：千屋正仁ほか

東北支部：「光硬化型 FRP シート工法」による排水樋管改修：安達公一ほか

関東支部：地元自治会・小学校とともに取り組んだ水辺再生事業：蜂須良浩

京都支部：狭小な現場における農業用水暗渠管の補修：阪口源次

中国四国支部：近接施工の意思決定手法：若林 孝ほか

九州支部：宇佐平野における浅層暗渠による麦・大豆の生産性の向上：園田耕司ほか

小講座：愛知用水幹線水路における水位制御方式：橋本尚樹

私のビジョン：水源地域保全活動と上下流交流：岡田昌治

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加下さるよう、お待ちしております。

ⓑのマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
平成23年9月19～23日	日本農業工学会ほか	CIGR (国際農業工学会) 国際シンポジウム 2011	持続的生物生産—水, エネルギー, 食料—	東京都	79巻9号
平成23年10月11日	北海道支部	第60回研究発表会 ⓑ		札幌市	79巻8号
平成23年10月18, 19日	九州支部	第92回講演会・ポスターセッション, 第34回講習会・シンポジウム・現地見学会 ⓑ		別府市	79巻7,8号
平成23年10月20日	資源循環研究部会	平成23年度研究発表会 ⓑ	未来のエネルギー・水・食料資源の循環に向けて	東京都	79巻7号
平成23年10月20, 21日	関東支部	第62回大会講演会 ⓑ		静岡市	79巻6,7号
平成23年10月20, 21日	中国四国支部	第66回講演会・第35回地方講習会 ⓑ		高知市	79巻6,8号
平成23年11月1, 2日	農村道路研究部会	第21回研究集会・現地研修会 ⓑ	農道のストックマネジメント	鹿児島市	79巻6,7号
平成23年11月10, 11日	農地保全研究部会	第32回研究集会 ⓑ	中山間地域における農地保全と耕作放棄対策	甲府市	79巻4,6,9号
平成23年11月17, 18日	京都支部	第68回研究発表会 ⓑ		奈良市	79巻4,6号
平成23年11月24, 25日	水文・水環境研究部会	第24回シンポジウム ⓑ	農林地および広域の水文・水環境	宇都宮市	79巻7号
平成23年11月26日	東北支部	平成23年度総会・第54回研究発表会 ⓑ		鶴岡市	79巻7,8,9号

平成23年度会員名簿の掲載事項について（再）

平成23年度版の当学会会員名簿の発行に係る掲載事項については、個人情報の保護に関する法律の規定に基づき、従来どおり当学会の「会員名簿の発行に伴う個人情報の扱い」により対処しますので、掲載事項としている下記の事項について、掲載に同意されないものがあれば、会員番号と氏名を明記のうえ、郵送、E-mail または FAX で、10月3日（月）までにご連絡下さい。（非掲載項目につきましては、前年度までにご連絡を頂いていて、変更のない場合は再度ご連絡を頂かなくても結構です。）

なお、ご連絡がない場合は、下記事項の掲載に同意されたこととさせていただきます。

記

会員名簿掲載事項

- ①【氏名】 ②【会員番号】 ③【出身校】 ④【卒年】
⑤【資格】 ⑥【勤務先および役職】 ⑦【自宅住所】
⑧【自宅電話番号】

連絡先

郵送の場合：〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

農業農村工学会 馬目あて

E-mail の場合：manome@jsidre.or.jp

FAX の場合：03-3435-8494

(参考)

会員名簿発行に伴う個人情報の扱い

以下の項目を遵守することによって、個人情報取扱義務を全うする。

- 利用目的の特定、利用目的による制限
農業農村工学会会員名簿の作成業務及び会員管理にのみ利用し、この範囲を超えて利用しない。
- データ内容の正確性の確保
個人情報の正確性、最新性を確保する。
- 安全管理措置、従業者、委託先の監督
安全管理のために、学会職員、印刷業者等に対して必要かつ適正な監督を行う。
- 第三者提供の制限
名簿は、(社) 農業農村工学会定款第6条に定める会員及び同会員が所属する機関に限り原価にて頒布する。

平成24年度農業農村工学会賞候補の推薦について（再）

平成24年度の農業農村工学会賞（上野賞、沢田賞を除く）を、本誌79巻7号78ページ掲載の募集要項に則って、推薦書によりご推薦下さい。

締切は、平成23年10月末日です。推薦書様式および授賞規程は学会のホームページをご参照下さい。

「農業農村工学会学術基金」への募金について

農業農村工学会は、農業農村工学の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本農業はかつてない厳しい環境におかれ、農業農村工学の役割も従来に増して一層重要なものとなり、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動に資するものとして、平成3年4月に学術基金を創設し、これに上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個人有志からの拠出金等をもってこの基金に充てることとしております。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、この学術基金による助成は、平成22年度までに56件の実績をあげています。

個人会員一口 5,000円（何口でも可）

法人会員一口 50,000円（何口でも可）

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名（社）農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

農業農村工学会災害対応調査団専門別調査団員登録について

災害対応特別委員会

農業農村工学会では、近年における地震、豪雨等による災害が各地で発生し、農地・農業用施設等に甚大な被害をもたらしている状況に鑑み、それら災害の原因究明、復旧対策工法の採用等に対する支援を行う組織として、災害対応特別委員会を設置しています。

この災害対応特別委員会では、「①農地・農業用施設に甚大な被害が発生した自然災害」、「②学術的見地から緊急調査が必要と判断される自然災害」に対して、災害発生後、直ちに災害対応調査団を派遣し、調査の実施、復旧支援を行う体制を整備しています。

そこで、災害対応調査団を組織しなければならない事態が生じた時に、早急に対応できるよう、調査団のメンバーに加わっていただける方は事前に登録をお願いします。審査の結果、登録された会員は、災害対応調査団候補者名簿（2年ごと更新）に記載して、緊急災害時等の場合に現地調査を行っていただきます。

なお、災害対応調査団の団員の資格および派遣の条件は、以

下のとおりです。

- ① 調査団の候補者は、高度な専門知識を有する農業農村工学会員とする。
- ② 派遣する調査団員は、候補者名簿の中から選定する。
- ③ 調査団の派遣期間は、原則2～3日とする。
- ④ 調査団派遣に関わる旅費は、農業農村工学会が後日精算する（年度予算限度額300万円）。
- ⑤ 調査団員に対して、調査に必要と考えられる保険を掛ける。
- ⑥ 調査団は、調査結果を速やかに報告する。

上記の趣旨をご理解のうえ、学会事務局 FAX 03-3435-8494、E-mail : saigai@jsidre.or.jp までお申し込み下さい。様式は農業農村工学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>) よりダウンロードして下さい。多数のご参加をお待ちしております。

なお、登録いただいた個人情報、災害対応調査にのみ活用し、適切に取り扱います。

学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集 !!

行事企画委員会

技術者継続教育機構 CPD 運営委員会通信教育部会

行事企画委員会では、継続教育機構の個人登録者となっている学会員が、在宅のまま手軽に CPD 単位取得ができる方法として、平成17年10月号より学会誌上を通じて「CPD 通信教育」を実施しています。これまでの実績として、毎回多くの解答者が2 CPD ポイントを取得しており、自己学習での年間最大10 CPD ポイントとは別に、通信教育分として年間最大24

CPD ポイントを取得するチャンスとなっています。まずはご登録をいただき、是非、通信教育にご解答をお寄せ下さい。

1. 参加資格

参加資格条件としては、農業農村工学会の個人会員であり、かつ継続教育機構の CPD 個人登録者に限ります。学会へのご入会や CPD 個人登録をされていない方は農業農村工学会と継

続教育機構のホームページから入会申込書、登録申込書をダウンロードし、それぞれ手続きを行って下さい。

2. 参加登録受付の時期と登録方法

参加登録の受付は随時行っています。登録方法は継続教育機構のホームページにある「通信教育参加申込書」(<http://www.jsidre.or.jp/cpd/tushinkyouikukaitou/moushikomipeji.html>)に必要事項を記入し、メール(kaito@cpd.jsidre.or.jp)あるいはFAX(03-5777-2099)で送付して下さい。

3. 出題方法

出題は毎回、3カ月前に発刊された学会誌の報文等の事実に基づく内容から、択一式の問題をCPD運営委員会通信教育部会が10問作成し、学会誌上に掲載します。なお、学会新入会者への学会誌の送本は“入会が承認された月の号から”となっています。ご入会前の学会誌が必要な場合は、バックナンバーとして販売(送料込み1,270円×冊数)いたしますので、別途お申し込み下さい。

4. 解答方法と解答期限

解答の方法としては、継続教育機構のホームページにある「通信教育解答用紙」(<http://www.jsidre.or.jp/cpd/tushinkyouikukaitou/kaitoupeji.html>)をダウンロードし、正解と思う番号および必要事項を記入して、メール(kaito@cpd.jsidre.or.jp)で送付して下さい。なお、解答期限が、8月号掲載の第71回通信教育問題より「問題掲載号の翌月末日まで」(例：8月号掲載分の場合、9月30日まで)となります。期限を過ぎた解答の

受付は一切できませんので、十分ご注意ください。

5. CPD ポイントの採点とポイント集計年度区分

採点の結果、7割以上正解で1.5 CPD ポイント、満点で2 CPD ポイントの取得となり、前年度の2月号出題分から当該年度の1月号出題分までの12カ月分を、当該年度の通信教育でのCPD取得ポイント分として取得者個々の継続教育記録に自動登録いたします。採点後のポイント取得結果は(下記7.で取得結果送付を希望する方以外は)毎年8月頃に送付する「CPD取得一覧表」でお知らせします。それまでは出題の翌々月に学会誌上で公表する「解答」から、自己採点をお願いします。なお、解答は技術者倫理に則り、自らの責任で作成して下さい。

6. 参加費

学会会員のための行事の一環として実施するため、学会が必要経費を負担しますので、当分の間、通信教育参加費は無料です(ただし学会誌のバックナンバー代については参加者負担)。

7. CPD 通信教育参加者の特典

毎年4月に、前年度分(2月号～翌1月号分)の通信教育で取得したCPD採点結果を算出します。採点結果の通知が必要な通信教育登録者は、事前に農業農村工学会継続教育部までご連絡下さい。また、5月上旬から通信教育で取得したポイント分についての「CPD取得証明書」を希望者に有料で発行いたします。

平成24年の表紙写真の募集

学会誌編集委員会

学会誌編集委員会では、平成24年発行の学会誌も引き続き皆さまからの写真で表紙を飾ることとします。平成24年分の募集からテーマが変わりました。趣旨をご覧のうえ、ご応募下さい。

趣 旨

わが国において、土や水を取り扱う技術の歴史は農業とともに発展してきました。農業の発展の過程で造られてきた幾多の農業施設は、農地を形成し、水を送り、物と人をつなぎ、連綿と我々の生活を支えてきました。これらの農業施設のいくつかは、長年の風雨にさらされながらも、機能を保ち続け、その地域の自然や文化に溶け込み、農村の景観を形成する重要な構成要素となっているものもあります。地域の人の悲願をかなえ続けてきたこれらの農業施設や構造物は、地域の人々によって大切に守り、管理された結果、四季折々に機能美と景観美を放ち続けているはずです。

農業農村の現場で活躍される皆さま、日ごろ何気なく見過ごしているかもしれない農村地域における農業施設・構造物とそれを含み景観の美しさを再評価いただき、忙しい業務の合間にも、足を止め、手を休めて写真として記録していただき、広

く一般の方々にご紹介下さい。

記

1. テーマ

「農村地域における農業施設・構造物：先人たちの技術と苦勞が垣間見える造形美」

2. 対象巻号

学会誌第80巻(平成24年1～12月号)

3. 写真の種類

単写真、組写真いずれもカラープリントで(デジタルカメラの場合はJPEG ファインモードまたはTIFFモードに設定)撮影して下さい(サイズは六ツ切)。組写真の場合は、その旨明記して下さい。

4. 枚数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

5. 締切 夏季 平成23年9月30日

6. 審査 審査委員会(編集委員と写真家)で選考します。

7. 結果発表

学会誌第80巻第1号で採用作品と掲載号を発表し、採用作品は平成24年度大会会場でパネル展示します。

8. 謝 礼

採用作品には規定の賞金（1点につき3万円）をお支払いします。また、応募者には記念品をお送りします。

9. 「Cover History（表紙写真由来）」について

採用作品の応募者には学会誌掲載の「Cover History（表紙写真由来）」をご執筆いただきます。ご執筆の詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせします。なお、些少ですが原稿料をお支払いします。

10. 使用権

採用作品の使用権は（社）農業農村工学会に属します。

11. 注意点

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、農業施設・構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれること（花などの情緒物に埋没しないこと）、また、デ

ジタル画像の場合は表紙に拡大したときにドット崩れしない十分な解像度があること、が採用の条件となります。

12. 応募方法および応募先

学会ホームページより、応募票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、氏名、年齢、職業、電話番号、性別、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、撮影データ（フィルム、使用カメラ等）、対象物の固有名詞（固有名詞）、対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送り下さい。

なお、原則として、応募写真は返却しません。

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

（社）農業農村工学会

農業農村工学会誌編集委員会「表紙写真公募」係

☎03-3436-3418 FAX 03-3435-8494

E-mail : suido@jsidre.or.jp

「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！

学会誌編集委員会

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページに掲載の「農業農村工学会誌投稿要

項」，「農業農村工学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿下さい。

学会誌 79, 80 巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ	要 旨 締 切 (A4判 1,500字以内)
79 巻 11 号 再生水の農業利用の動向と課題 (仮)	公募なし
12 号 地球環境 (地球温暖化) 問題への取組みと今後の課題 (仮)	公募なし
80 巻 1 号 農業農村工学分野における戦略的アウトリーチ活動 (仮)	公募終了
2 号 国内外における農地での塩類集積の事例と課題 (仮)	平成 23 年 9 月 22 日
3 号 これからの農業水利施設の管理運営のあり方について (仮)	平成 23 年 10 月 25 日
4 号 東日本大震災から 1 年 (仮)	公募なし
5 号 土壌保全とその評価 (仮)	平成 23 年 12 月 25 日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌編集委員会あてにお寄せ下さい。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は、刷上り 4 ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたし

ます。

送付先 〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

（社）農業農村工学会 学会誌編集委員会あて

☎03-3436-3418 FAX 03-3435-8494

E-mail : henshu@jsidre.or.jp

80 巻 2 号テーマ「国内外における農地での塩類集積の事例と課題」(仮)

農地における塩類集積とそれに伴う塩害が世界各地に広がっています。地球人口は現在では約 70 億人ですが 2050 年には 90 億人を超えるとも予測されています。人口増加に対応するために世界的な食糧増産が求められていますが、農地における塩害の拡大が大きな障害となる恐れがあります。

塩類集積の原因にはさまざまな要因があり、それぞれ発生メ

カニズムも異なると考えられます。世界的に広がる塩類集積の実態や塩害事例、対策、予防などに関する知見を幅広く蓄積することが塩害の拡散防止と被害の縮小につながるものと考えます。

本特集では、国内外を問わず世界各地に広がる塩類集積の事例やその対策等に関する報告を広く募集します。

国際学会「国際水田・水環境工学会」への入会のお願いと 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」について

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering : PAWEES) は、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を発行しています。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。たくさんの方々が国際学会へ入会されることを希望します。

掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑 (水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水 (排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全 (土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全 (水源開発, 水文)
- ⑤ 水田の多面的機能 (洪水調節, 地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全 (水生, 陸生動物植物の生態系)

- ⑦ 地域計画 (農村計画, 土地利用計画など)
- ⑧ バイオ環境システム (水田農業と水環境, 土壌環境, 気象環境)
- ⑨ 水田の多目的利用 (田畑転換, 施設園芸)
- ⑩ 農業政策 (農村振興, 条件不利地の支援策など)

水田農業を通じた国際的な研究交流, 情報交換の場として, 皆様の国際学会への入会をお勧めします。

国際学会に入会されますと, 会員には国際ジャーナルが, 年4回無料で配布されます。

出版社: Springer-Verlag 社 (ドイツ)

発行スケジュール: 年4回 (3, 6, 8, 12月)

国際学会会費: 正会員 12,000 円 (農業農村工学会員に限る)

学生会員 (院生含む) 8,500 円 (農業農村工学会員に限る)

申込先: 農業農村工学会編集出版部 中村あて

ホームページ: <http://www.jsidre.or.jp>

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2009年1月から2011年12月までの編集事務局 (投稿先) のお知らせ

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering) の機関誌, 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」は, 2011年9月末に Vol.9, No.3 が発行されます。

本ジャーナルは 2009年12月より, トムソン・ロイター社の SCIE (Science Citation Index Expanded) に収録されています。わが国においても学術誌の評価に, SCIE の IF (Impact Factor) が利用されており, 本国際ジャーナルでも IF の取得により高い評価を得ております。

また, 世界13カ国から Editor (23名) を選出することにより, 国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし, さらに国際的な流通を考慮して, 国際出版社として著名な Springer-Verlag 社からの刊行です。掲載論文は, Review, Article, Technical Report および Short Communication の4種類です。

投稿から掲載までの時間を短縮するとともに, 年4回の発行としております。投稿者は国際学会員に限りませんが, 投稿料, 掲載料などを無料として投稿者の負担を軽くするように配慮されています。

2009年1月から2011年12月までの編集事務局 (投稿先) は, 台湾です。

投稿先: Yu-Pin Lin, Ph. D., Professor

Department of Bioenvironmental Systems Engineering National Taiwan University

No.1, Sec.4, Roosevelt Road, Taipei, 10617 Taiwan (R. O. C)

E-mail: yplin@ntu.edu.tw

TEL: +8862-2-3366-3467 FAX: +8862-2-2363-5854

(During Jan. 2009 to Dec. 2011)

編集方針: 水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としている。

その分野は, 水田農業地帯における灌漑と排水, 土壌保全, 土地資源や水資源の保全と管理, 水田の多面的機能, 農業政策, 地域計画, バイオ環境システム, 生態系の保全, 水田保全, 田畑輪換等である。

編集体制

• Editor-in-Chief: Dr. Masaru Mizoguchi (Japan)

Graduate School of Agricultural Sciences, University of Tokyo, Tokyo, Japan

• Editors 13カ国から23名

• Editing Board 35名

• Managing Editors

Chief Managing Editor: Prof. Dr. Yu-Pin LIN

Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Taipei, Taiwan, Rep. of China

Prof. Dr. Yoshiyuki SHINOGI

Faculty of Agriculture, Kyushu University, Fukuoka,
Japan

Prof. Dr. Haruhiko HORINO

Graduate School of Life and Environmental Sciences,
Osaka Prefecture University, Osaka, Japan

Dr. Kazunari FUKUMURA

Department of Agricultural Environmental Engineer-
ing, Utsunomiya University, Utsunomiya, Japan

Prof. Dr. Jin-Yong CHOI

Department of Landscape Architecture and Rural System
Engineering, Seoul National University, Seoul, Korea

出版社：Springer-Verlag 社（ドイツ）

投稿資格：筆者全員が国際学会員であること。

投稿要領等：http://www.jsidre.or.jp に詳細を記載していま
す。

CIGR（国際農業工学会）国際シンポジウム 2011 の開催について

持続的生物生産 —水，エネルギー，食料—

国際委員会

21 世紀は人口増加や急激な都市開発など人為起源による全
球的环境問題に直面しており国際農業工学会（CIGR）は世界
の関連する学術団体と連携しそれらの解決方策の研究と提言を
行ってきました。本シンポジウムは、水、エネルギー、食料
をテーマに農業生産に関する土地基盤、機械化、農作業、環境
改善、IT、農業用ロボット、精密農業、生物環境調節、気象環
境制御、バイオマス技術、遺伝子組み換え作物隔離栽培施設等々
のイノベーション技術等の学問分野の研究発表とシンポジウ
ム、記念講演などを世界各国の研究者や一般市民の参加のもと
に行います。

水、エネルギー、食料についての開発途上国を含めた世界規
模の調和を探索しつつ、世界農業を展望し、21 世紀の最先端の
農業工学技術のさらなる発展・普及をめざし、わが国および世
界の農業工学の発展に寄与し、持続的生物生産のための農業生
産環境に焦点を当てることによって、人類に不可欠な安全・安
心で高品質な食料の増産、水・エネルギーに関する農業生産環
境保全などによって、農林水畜産業の発展を促進することを目
的に開催いたします。

このシンポジウムには、農業農村工学会もオーガナイズド
セッションおよび東日本大震災関連のセッションを企画し、参
画しておりますので、ぜひご参加下さい。

1. 主 催

日本学術会議
日本農業工学会（農業農村工学会ほか 8 学会）
国際農業工学会

2. 後援（予定）

文部科学省、農林水産省、国土交通省、環境省、経済産業省、
東京都

3. 日 時 平成 23 年 9 月 19 日（月）～23 日（金）[5 日間]

4. 会 場 タワーホール船堀
東京都江戸川区船堀 4-1-1 ☎03-5676-2501

5. プログラム

〈午前の部〉 〈午後の部〉
9 月 19 日（月） 参加受付

9 月 20 日（火）	開会式・ 特別講演（市民公開）	記念講演、 特別セッション
9 月 21 日（水）	市民公開講座、 見学ツアー	市民公開講座、 見学ツアー
9 月 22 日（木）	一般講演、 ポスター発表	一般講演、 ポスター発表
9 月 23 日（金）	一般講演、 ポスター発表	一般講演・ 閉会式

6. 参加費

一 般 50,000 円
学 生 30,000 円
配偶者 8,000 円
1 日参加 18,000 円
会 食 8,000 円（9 月 22 日（木）18:00～20:00）
見学ツアー 6,000 円

7. CIGR 国際シンポジウム 2011 事務局・連絡先

〒305-8572 茨城県つくば市天王台 1-1-1
筑波大学生命環境科学研究科 北村 豊
TEL&FAX 029-853-4655
E-mail: CIGR2011@agbi.tsukuba.ac.jp

8. 大会 WEB サイト

http://www.cigr2011.org

9. 東日本大震災関連セッション（発表は英語）

日時：9 月 20 日（火）13:00～15:30

会場：4 F 研修室

テーマ：Restoration and Reconstruction of Tsunami Dis-
astered Rural Area

オーガナイザー：Yamaji Eiji (The University of Tokyo)

- 1) Restoration and Reconstruction of the Fundamental
Main Facilities for Agriculture
Naka Tatsuo (NRIRE)
- 2) Salt-Flooded Agricultural Land and Restoration (tenta-
tive)
Shima Eikichi (Kitasato University)

- 3) Prospect of Restoration from Technology of Machinery (tentative)
Shibusawa Sakae (Tokyo University of Agriculture and Technology)
- 4) Challenges in Post-disaster Reconstruction of Rural Areas of Tohoku
Hashimoto Shizuka (Kyoto University)
10. 農業農村工学会オーガナイズドセッション (発表は英語)
日時: 9月22日(木) 9:00~11:30
会場: H会場 (蓬萊)
テーマ: Evaluating the Issue on both the Rice Production in Paddy Field and Water Cycle under the Effect of Global Warming
オーガナイザー: Shima Eikichi (Kitasato University)
- 1) 日本: The Aichi canal project 50 years of operation and improvement
○Nakajo Yasuro, Kozakai Toru
- 2) 韓国: Climate Change Effects on Agricultural Water Resources Management in Korea
○Jin-Yong Choi, Seung-Hwang Yoo, Sang-Hyun Lee, Yun-Gyeong Oh
- 3) 台湾: History of large scale irrigation and drainage projects and the growth of regional societies in Taiwan
○Yu-Chuan Chang, Yoshino Kunihiko, Chun-E Kan, Chang-Chi Cheng, Yamaji Eiji, Shima Eikichi, Fujisaki Hiroyuki, Ishikawa Masaya, Ishii Atsushi
- 4) エジプト: Water management improvement in the Nile Delta under decreasing water resources availability
○Nahla Abu El Fatouh, Talaat El Gama, Mohamed Ebraheem Melaha, Waleed Abu Hassan, Satoh Masayoshi, Taniguchi Tomoyuki

平成23年度東北支部総会・第54回東北支部研究発表会の開催について (第3報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 期日 平成23年11月26日(土) 宮城大学教授 加藤 徹
2. 会場 山形大学農学部 (鶴岡キャンパス) 同講師 千葉克己
〒997-8555 山形県鶴岡市若葉町1-23
☎0235-28-2908 FAX 0235-28-2901
【会場担当: 梶原晶彦】
3. プログラム (予定)
- (1) 総会ならびに研究発表会
- 〈支部総会〉
- 9:00~9:30 会員受付
- 9:30~10:15 支部総会
- 10:15~10:45 支部賞授賞式
- 10:45~11:00 休憩
- (10:30~11:00 一般受付)
- 11:00~12:30 特別報告会 (公開)
- 東日本大震災「農地・農業施設被害調査」報告 (仮)
プログラム (予定)
開催挨拶
- 東北支部長・秋田県立大学教授 佐藤照男
総合司会 北里大学教授 嶋 栄吉
- 報告1. 「東日本大震災による農地・農業施設の被害概況 (仮)」
東北農政局設計課長 石川善成
- 報告2. 「岩手県における農地・農業施設被害実態について (仮)」
岩手大学教授 古賀 潔
- 報告3. 「宮城県における農地・農業施設の被害実態について (仮)」
- 12:30~13:30 昼食・休憩
- 〈第54回東北支部研究発表会〉
- 13:30~14:20 ポスター発表 (コアタイム)
(東日本大震災「農地・農業施設被害調査」関係のポスター報告含む)
- 14:30~17:10 口頭発表
- (2) 情報交換会
- 18:30~20:00 会場: 東京第一ホテル鶴岡
〒997-0031 鶴岡市錦町2-10
☎0235-24-7611 FAX 0235-24-7621
4. 参加申込みと参加費振込先
- 平成23年度の支部大会全般を山形県が担当しますが、研究発表会のプログラム編集は秋田県立大学が担当します。そのため、「A. 参加申込み・参加費納入先」と「B. 研究発表申込み方法」が、それぞれ下記のように異なりますので注意して下さい。
- A. 参加申込み・参加費納入先
- (1) 参加費内訳
- 総会ならびに研究発表会 3,000円 (学生会員 2,000円)
情報交換会 5,000円 (学生会員 3,000円)
- (2) 申込みおよび問合せ先

山形県農林水産部農村整備課 荒尾, 安孫子
〒990-8570 山形市松波 2-8-1
☎023-630-2501, 2511 FAX 023-630-2509
E-mail : nntohoku23@pref.yamagata.jp

(参加申込み専用アドレス)

申込書式(下記東北支部開設ホームページよりダウンロード
できます)により所属機関ごと一括して, FAX, E-mail また
は郵送にてお申し込み下さい。

<http://www.jsidre.or.jp/shibu/tohoku>

【記入例】

農業農村工学会東北支部総会・研究発表会参加申込書

所属機関名: _____
所在地: (〒 -) _____
連絡者名(ふりがな): _____
電話/FAX: _____
E-mail: _____

所属	氏名	CPD個人登録者番号 (技術者継続教育機構)	総会・研究発表会		合計金額
			参加費 (学生会員)	情報交換会 (学生会員)	
			3,000 (2,000)	5,000 (3,000)	
例. 山形県	山形太郎	L123456	3,000	5,000	8,000
例. 秋田県大	秋田こまち		2,000	3,000	5,000
総合計金額					13,000

(3) 参加費の振込先

銀行名 山形銀行 県庁支店 (店番号 113)
口座番号 普通 3057356
加入者名 農業農村工学会東北支部大会事務局 会計
安孫子一敏
(ノウギョウノウソンコウガクカイトウホクシブタイカイ
イジムキョク カイケイ アビコ カズトシ)
※手数料は振込者負担をお願いします。

(4) 参加費の納入と取消し等

参加費の納入は, 申込みと同時に銀行振込で全額納入して下
さい。

なお, 参加取消し等による参加費の返金には応じかねますの
で, ご注意下さい。

(5) 参加申込期間

平成 23 年 9 月 1 日 (木) ~10 月 31 日 (月)

B. 研究発表申込方法

(1) 研究発表申込み・問合せ先

研究発表要旨集原稿に投稿票を添えて, 下記にお申し
込み下さい。

(申込み・問合せ先)

〒010-0444 秋田県南秋田郡大湯村字南 2-2
秋田県立大学生物資源科学部アグリビジネス学科
近藤 正
☎0185-45-3918 FAX 0185-45-2377
E-mail : t_kondo@akita-pu.ac.jp

(2) 投稿要領

研究発表要旨集原稿・投稿票の書き方については下記
の農業農村工学会ホームページを参照して下さい。

<http://www.jsidre.or.jp/newinfo/23shibu/>

(3) 発表時間・発表手段

発表時間は 15 分以内 (発表 12 分, 質疑 3 分)

発表補助手段: パソコン, CD-R, USB メモリ使用可
(各会場 PC は, OS Windows, ソフト Power Point 2003
を準備します。)

(4) 研究発表申込受付期間

平成 23 年 8 月 10 日 (水) ~9 月 20 日 (火)

(5) ポスター発表について

平成 23 年度の東北支部大会では, ポスター展示による
発表・報告会場を設置いたします。ポスターでの発表・報
告を希望される方は, 投稿票にポスター希望と記し, 発表
要旨原稿とともに上記にお申し込み下さい。

ポスター発表のスペースは, 1 件につき横幅約 100 cm×
高さ約 180 cm を用意します。ポスターは当日の午前中ま
でに発表者ご自身で所定の場所に掲示願います。

5. 会場への案内

山形大学農学部 (鶴岡キャンパス)

(1) JR 鶴岡駅から南西へ約 1.5 km (徒歩約 15 分)

(2) 山形駅から鶴岡駅までの所要時間:

バス約 100 分, JR 約 120 分

(3) 航空機利用の場合:

庄内空港から鶴岡駅まで連絡バス約 25 分

6. 宿泊について

宿泊についての斡旋はいたしませんので, ご了承下さい。

※東北支部大会の最新情報は下記ホームページでお知らせいた
しますので, ご活用下さい。

<http://www.jsidre.or.jp/shibu/tohoku/right.html>

第 32 回農地保全研究部会研究集会の開催について (第 3 報)

テーマ「中山間地域における農地保全と耕作放棄対策」

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



農地保全研究部会では, 第 32 回研究集会および現地研修会
を開催します。プログラムや参加申し込みについては下記のと
おりです。

1. 開催日

(1) 研究集会 平成 23 年 11 月 10 日 (木)

(2) 現地研修会 平成 23 年 11 月 11 日 (金)

2. 場所

(1) 研究集会 甲府市ベルクラシック

(〒400-0031 山梨県甲府市丸の内 1-1-17)
JR 甲府駅北口 徒歩 3 分
☎055-254-1000

17:20~17:30 閉会挨拶
18:00~20:00 情報交換会
会場：バルクラシック

(2) 現地研修会 山梨県北杜市, 甲斐市

(2) 現地研修会

3. プログラム

(1) 研究集会

- 9:30~10:00 受付
10:00~10:10 部会長挨拶 東京農業大学 駒村正治
10:10~11:10 基調講演 「中山間地域における農地保全について」 東京大学 宮崎 毅
11:10~12:00 講演 1 「北杜市明野における耕作放棄対策」 明野茅ヶ岳土地改良区 常務理事 三井金彦
12:00~13:00 昼食 (駅周辺の食堂をご利用下さい。)
13:00~13:45 講演 2 「中山間地域における鳥獣害防止対策」
山梨県総合農業技術センター環境部
環境保全・鳥獣害対策科 本田 剛
13:45~14:30 講演 3 「耕作放棄による水田の多面的機能喪失」
中央農業総合研究センター 小倉 力
14:30~14:45 休憩
14:45~15:30 講演 4 「耕作放棄の実態と新担い手による活性化」
(株) ヴィンテージファーム 山田守郎
15:30~16:10 情勢報告「東日本地震関連 (土地改良の特例法・除塩等)」
農林水産省農村振興局 佐藤具揮
16:10~17:20 総合討論

8:40~8:55 受付 (受付場所は JR 甲府駅北口)

9:00 甲府駅発

9:40~10:40 北杜市明野茅ヶ岳土地改良区内

10:50~11:30 ヴィンテージファーム (北杜市須玉町)

11:50~13:00 昼食 おいしい学校 (北杜市須玉町)

13:10~13:30 北杜市須玉町鳥獣防止地区

14:20~15:40 ぶどう園造成地 (甲斐市登美の丘ワイナリー)

16:30 甲府駅着 解散

(なお、スケジュールについては一部変更の可能性があります)

4. 参加費および申込み

- (1) 参加費 研究集会 3,000 円
情報交換会 5,000 円
現地研修会 4,000 円 (昼食代 1,000 円含む)

(2) 申込み・問合せ先

東京農業大学地域環境科学部生産環境工学科
農地環境工学研究室 藤川

〒156-8502 東京都世田谷区桜丘 1-1-1

☎03-5477-2340

(3) 申込締切 平成 23 年 10 月 15 日 (土)

(4) 支払い方法 銀行振込

三井住友銀行 経堂支店 普通 6887245

農業農村工学会農地保全研究部会 部会長 駒村正治

地域環境工学シリーズ 7

地域に根づく“開発”とは：国際協力の現場から

— 日本の海外農業農村開発協力 — (社) 農業農村工学会発行

目次

まえがき

I. 海外農業農村開発協力の必要性

1. 海外の農業農村を取巻く諸問題
2. 農業農村開発協力の展開と課題

II. 日本の海外農業農村開発への取組み

1. 農業生産基盤整備への取組み
2. 環境問題への取組み
3. 農村社会開発
4. 国際的研究・協力

5. 農業分野における国民参加型の開発協力

6. 日本の農業農村開発協力の仕組み

III. これからの国際農業農村開発協力の展望

1. 持続可能な農業農村開発に向けてのアプローチ
2. 協力体制の強化

IV. ANNEX

1. 海外農業農村開発協力に携わる各機関等
2. 国際協力用語解説, 入門図書案内

A 5 判 約200ページ 定 価3,300円 (内税・送料学会負担)
会員特価2,900円 (内税・送料学会負担)
〔会員特価は、個人会員による前金購入の場合のみ適用されます〕

申込先 〒105-0004 港区新橋5-34-4
(社) 農業農村工学会
☎03-3436-3418 FAX03-3435-8494